

祝 辞

愛媛県俳句協会会長 相原左義長

俳句界には「三号俳誌」と言う言葉があります。つまり俳句は手取り早くすぐ出来、グループの十人や二十人はすぐ集り、俳句雑誌も案外簡単に出来るが長つづきしないと言うことである。

えひめスポーツ俳句大賞は第7回を迎えることが出来ました。愛媛県体育協会あつてのえひめスポーツ俳句大賞ですが、明治三十五年九月若干三十六歳で逝去した正岡子規は俳句は勿論、短歌・川柳・短詩・文章・絵画、等々の改革につとめたことは周知の通りですが、当時としては「短詩型文学」と言う言葉はなかったかもしれないが、今や短詩型文学が「ノーベル賞」の対象に上ろうとして調査期間に入っていると聞いております。

短詩文学がノーベル賞の対象に決定すれば、その中で俳句は重要な位置をしめることになります。ノーベル賞候補の調査期間は短かくても十年はかかると言われておりますが、現在その調査期間中と思われませんが、俳句もいよいよノーベル賞を受ける日がきつと来るものと考えられます。

このように考えて行けば、スポーツは「オリンピック」、俳句は「ノーベル賞」を目ざす対象と言っても過言ではありません。きつとそのような時代が来ると考えられるのであります。世界は広いようできにあらざ、「えひめスポーツ俳句大賞」こそは世界を目ざす体育文化の育成にあると言えましよう。

世界は今や不景気のどん底にあります。いつまでもこのままではすこされない、景気回復をあの手この手と考えることでしよう。必ず景気は回復されるでしょう。それと同時に体育、文化も発展させねばなりません。それには地道にこの活動をつづけて行くしかありません。財団法人愛媛県体育協会が発展することを祈って私の祝辞といたします。